

### 第3回北陸圏広域地方計画協議会 議事概要

日時：平成27年3月25日（水）15：00～16：30

場所：ボルファートとやま 4階 琥珀

#### 1. 開 会

#### 2. 挨拶

##### （永原協議会長）

- ・本日はお忙しいところありがとうございます。
- ・現行の広域地方計画については、平成21年に策定してから5年が経過し、中間評価をとりまとめ、北陸圏が目指す将来像が着実に前進してきたところです。
- ・昨今、急激な人口減少、少子高齢化、災害リスクの高まりなど、日本海と太平洋の2面活用型国土として、北陸の役割が大きくなってきています。
- ・平成26年には国土強靱化基本計画や国土のグランドデザイン2050が策定されたところ、全国計画とともに、新たな「北陸圏広域地方計画」の策定にとりかかることになりました。
- ・この会議では、骨子のとりまとめに向けて、北陸が環日本海交流の中核拠点として、自律的に発展していくための戦略といった観点から、忌憚のないご意見等を頂ければと思います。
- ・本日はよろしく願いいたします。

##### （佐々木国土交通審議官）

- ・ご出席の各県、市町、経済団体、関係省庁の皆さまにおかれましては、日頃から国土交通行政の推進にご支援いただき、厚く御礼申し上げます。また、広域地方計画の推進に多大なるご尽力を頂いていることについても厚くお礼申し上げます。
- ・最初に国土計画ができてから50年以上がたち、これまで6次にわたり改定されてきました。これまでは右肩上がりの経済成長時の計画でありましたが、今回は人口減少や国土の安全安心に対する懸念が高まっている中での初めての計画策定となります。この視点で昨年7月に国土のグランドデザイン2050を策定し、コンパクトシティ＋ネットワークを基幹において、各都市の連携を深め、個性ある地域が対流によって発展する考え方を示しました。
- ・新しくつくる国土形成計画のポイントは、広域地方計画が大きなウェイトを占めることです。それぞれの地域の個性や展望を地域で知恵を出していただいて、それぞれの地域が将来にわたって発展に資する計画をいかに作成、推進していくかがあります。皆さまの力で北陸圏を成長させるような計画を策定いただきたくお願い申し上げます。

### **3. 議 事**

#### **協議会の成立について**

##### **(永原協議会長)**

- ・協議会運営要領3条により、構成員総数の2分の1以上の方の出席が必要ですが、本日は半数以上の方にご出席いただいておりますので、本協議会は成立しております。

#### **本会の公開について**

##### **(永原協議会長)**

- ・協議会運営要領第3条に基づき公開としたい。

##### **(委員一同)**

- ・異議なし

#### **1) 新たな国土形成計画（全国計画）中間とりまとめについて**

##### **(館大臣官房審議官より説明)**

- ・近年の社会背景の変化をふまえ、国土のグランドデザイン2050をとりまとめた。
- ・これを踏まえ、国土形成計画の策定作業に着手し、中間とりまとめを行い、昨日3月24日に国土審議会で報告された。
- ・ポイントは、時代の潮流と課題、国民の価値観の変化、国土空間の変化等の環境変化の中で、今後10年を日本の命運を決する10年ととらえ、3つの目標を設定し、国土の基本構想を策定した。対流促進型国土の形成、コンパクト+ネットワーク、東京一極集中の是正と東京圏の位置付け、地域別整備の方向を示した。
- ・新たな国土形成計画の全体構成の中で、本日はご紹介した基本構想が第一部にあたるもので、基本的考え方を示したもので、第二部では分野別施策の基本的方向を記載するもので、これから作成を進める。第三部が本日はご議論いただく広域地方計画に関する内容となる。
- ・今回の国土形成計画では、広域地方計画の策定が重要となるので、充実したご議論をお願いしたい。

#### **2) 新たな「北陸圏広域地方計画（案）」骨子について**

##### **(石川総括副室長より説明)**

- ・平成27年2月17日に有識者懇談会にて欠席委員を含む全員から意見聴取し、同2月20日に幹事会を開催、構成員より意見聴取し、これを踏まえた資料修正・骨子修正を行って、本日の協議会資料としてとりまとめた。
- ・検討の過程で、将来像、戦略目標に対して様々な意見を頂戴し、将来像等の一部見直しを図った。また、幹事会後の構成員からの意見も可能な限り反映し、北陸新幹線の

大阪への早期延伸要望の高まり等を記載している。  
(以降、新たな広域地方計画に関する説明資料、骨子概要、骨子案を説明。)

### 3) 意見交換

#### (永原協議会長)

- ・骨子案についてご意見を頂きたい。

#### (高岡市 高橋市長)

- ・北陸圏3県はよく「住みやすい」といわれている。しかし、住んでいる者にとっては、人口流出も続き、問題をもっている。その点を改善する計画となり、そのツールが頂けると良い。市町村の立場からの意見としては、市町村毎に個性にばらつきがあり、高岡市は周辺を含めて40万人規模の都市圏を形成している。富山県でも複数の圏域に別れ、それぞれ一つの魅力あるエリアを考え、その中で幸せな暮らしやすい場所でありたいと考えている。市町村では、地方創生の検討の中で戦略づくりを進めており、そのためにも北陸圏域で目指す方向性をお示し頂きたい。今後、市町村間で連携して取り組むことがポイントと考えている。県内では人口20万人都市が少ない実態があり、どういう圏域構造で考えるのか、その辺の議論があったうえで、日常的な生活圏の中で暮らしやすい生活が完結するような姿が大事と考えている。そういう行政構造を念頭において将来像の検討を推進してほしい。

#### (上市町 伊東町長)

- ・ひとつ目は、第一次産業の維持が重要である。改革推進やTPPについては慎重に考えてほしい。ふたつ目は、東京一極集中の是正が重要である。東京に高層ビルが建つ毎に、地方の村がなくなるということを考えていく必要がある。もうひとつ、本州と四国、北海道等をつなぐ長大橋・長大トンネルの設置によって様々な相乗効果が出てきた点を鑑み、短期的な視点ばかりでなく、長野県と富山県をつなぐトンネル整備のような10年20年先などの長期的な視点で考えた施策を展開してほしい。これらの課題について知恵を絞ってほしい。

#### (富山県)

- ・骨子案の将来像、戦略目標に記載のある、日本海国土軸の強化、太平洋側との連携強化は北陸圏の発展に不可欠で、ぜひ計画に反映してほしい。今後の広域連携プロジェクトの作成に際しても強く意識してほしい。連携強化のために道路、鉄道、港湾、空港等の基盤整備が重要となる。東海北陸道の4車線化、北陸新幹線の敦賀までの早期開業及び大阪までの早期延伸、貨物ネットワークの維持・強化、日本海側拠点港や空港の機能強化等を盛り込んでほしい。スケジュール的な話で、新年度から地方創生にかかる総合戦略策定に入るが、総合戦略と広域地方計画の内容のすり合わせに配慮願いたい。

#### (石川県)

- ・北陸新幹線が開業し、多くの方が金沢に訪れて頂いており、この効果を全県に波及させるとともに引き続き取り組んでいきたい。また、県内にはまだ未整備区間が残っているので、引き続き北陸新幹線の整備をお願いしたい。石川県も住みよさについて高い評価を得ているが、本県でも人口減少が続いており、来年度は「いしかわ創生」と称して計画策定を予定している。少子化、出生率向上、社会減に対する対応を盛り込んでいきたい。そのような中で、地域それぞれの個性・条件に配慮した広域連携プロジェクトを検討頂きたい。

#### **(福井県)**

- ・福井県は、幸福度ランキング日本一となり、石川県、富山県も上位にある。こういった面を打ち出して頂けるのはありがたい。他県同様に人口減少が進んでいるので、ここをどう改善していくかが重要で、また県民自身に実感がないことも課題である。これらの課題をわかりやすいかたちで打ち出していくことが必要だと認識している。その中で、広域地方計画で「幸せな暮らし」がキーワードになることは、大変ありがたい。具体的な意見として2点ある。北陸新幹線の波及効果はあるものの限定的である。敦賀までの8年後の開業を打ち出して頂いたが、北陸圏にとって大阪とのつながりが重要なので、大阪までのフル規格での延伸について具体のプロジェクトの中でも位置付けてほしい。次に、2面活用型国土に関連しては、港湾が重要である。港湾の投資が太平洋側に集中する感があるので、日本海側の港湾への投資を計画に位置付けてほしい。

#### **(新潟県)**

- ・北陸圏の隣接県という立場でご意見させていただいている。今回の改定にあたっては、大災害発生時のリダンダンシー確保やエネルギーの安定供給等の観点から日本海国土軸の形成が重要であると考えており、今回の骨子案の中で目標に位置付けられているので、本県もその実現を目指していきたい。この考え方を全国に広めるべく、場面場面でお力添え頂けるように他圏域の会議でもご意見をさせて頂いている。北陸新幹線開業で最も注目されている北陸圏なので、本県も連携させて頂いて、このタイミングを活用した日本海国土軸の発展に向けて貢献していきたい。

#### **(北陸信越運輸局)**

- ・北陸圏から大阪への延伸要望について、金沢開業をした直後でもあり、各方面からそのようなお話をよく聞く。機会ある毎に本省へしっかり要望を伝えていく。

#### **(富山県商工会議所連合会)**

- ・有識者の意見に「わくわくするような計画」という表現があった。新・北陸の姿を子・孫につなげていけるような計画となると良いと思う。その意味で、将来像の実現がされると良いと考える。北陸圏が日本海型国土軸をけん引するという表現は素晴らしい。富山県では逆さ地図を作成しており、日本の中心が北陸ということを表しており、そうなることを願う。北陸新幹線開業により時間的に東京は近くなったが、中京・関西

圏は遠くなった感があるので、平成27年度に詳細検討を進める際には、北陸新幹線の大阪までのフル規格整備や開業年次が記載されるとうれしい。中京圏を考えた場合、北陸の港を中心とした環日本海との物流・人流に取り組んでいるが、東海北陸自動車道だけでなく、鉄道（高山本線）の電化・複線化をお願いしたい。最後に参考資料として「産業観光に関するパンフレット」を配布させて頂いた。北陸新幹線開業にあわせ、広域エリアで誘客することが重要で、県内の産業観光施設をまとめた冊子を作成した。外国ビジネスマンのゴールデンルートは、東京で商談、京都で観光、富山で産業関連の見学を行うそうだ。産業観光は新たな取引を産む場ともなり内需拡大にもつながるので、力を入れたい。骨子案をみると広域観光ルート構築の記述があるので、できれば圏域全体でのモノづくり産業の集積を活かした産業観光ルートも検討してほしい。あわせて、空港、新幹線駅、港における二次交通の整備・充実もお願いしたい。

#### **（北陸総合通信局）**

- ・骨子案について異論はございません。ICTの進歩を踏まえた基盤整備が重要である。北陸圏においては、例えば光ファイバーについて、まだ行き届いていない地区がある。ICTの基盤整備の推進やその利活用の促進策を通じて、4章や5章で示される目標等の実現に向けてサポートしていきたい。

#### **（中部地方環境事務所）**

- ・広域地方計画案の中で、2面活用型国土や太平洋側との連携強化がうたわれているが、河川に着目すると、北陸圏と中部圏は関係が深い面があり、水資源については中部圏も多大な恩恵を受けている。その恩恵に対する支援を自然環境の面から考えていくことが必要と考えている。

#### **（永原協議会長）**

- ・他に意見がないようなので、次の議事に移ることとする。

### **4) 今後のスケジュール**

#### **（石川総括副室長）**

- ・本日の意見を踏まえて資料作成を進め、平成27年秋頃に中間整理素案、冬頃に計画原案をまとめ、年末に予定するパブリックコメントを経て、来年3月頃に広域地方計画の大臣決定を受けることを予定している。
- ・協議会は、9月頃と12月頃に予定している。

#### **（永原協議会長）**

- ・本日の意見を踏まえ、事務局にて必要な修正をし、骨子案の最終的なとりまとめをさせていただきます。骨子は、改めて協議会は開催せず、事務局から公表させていただきます。

#### **（委員一同）**

- ・異議なし

#### **5) その他（事務局からの連絡事項）**

- ・ 本日の資料及び議事概要は公表を予定している。
- ・ 協議会を踏まえて修正した骨子は、構成機関の担当者に報告・配信し、3月30日(月)までの確認を依頼する。
- ・ 議事概要は、皆さまに内容を確認頂いた後に公表する、という手続きとする。

#### **5. 閉 会**

##### **（野田北陸地方整備局長）**

- ・ 年度末のお忙しいところ本日はありがとうございました。
- ・ 本日、骨子のとりまとめがされましたが、「新・北陸」を打ち出し、将来を見据えて、これから1年かけて計画を練っていくこととなります。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

(以上)